

取扱説明書



※ 本機には、**デモ・データ（バンク 8）**が収録されています。**一度消去してしまうと元に戻すことはできません。最初に「パソコンにバックアップする」（P.15）の手順でバックアップしてください。**

※ 本機は、**演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（オート・オフ機能）。**

自動的に電源が切れないようにするには、オート・オフ機能を解除してください（P.7）。

- 電源が切れると編集時の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。
- 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください（P.7）。

主な特長

RC-202 は、ボーカルやギターなどあなたのあらゆる演奏をレコーディングして、即座にプレイバックするライブ・パフォーマンス・ツールです。リアルタイムに音を重ねていくことで、あなたのライブ・パフォーマンスを最大限に引き出します。

- レコーディングのために用意されたインプット FX により、ピッチ・シフターや Lo-Fi などを使い、多彩なループ・フレーズが生み出せます。
- プレイバック・トラックに用意されたトラック FX により、ターン・テーブルの回転を落としたような効果やサンプラーを連打したような効果など、ライブ・パフォーマンスにアクセントや展開を与えることができます。
- あらかじめ録音したループ・フレーズとリアルタイム・レコーディングを組み合わせることができます。また、パソコンの WAV ファイルをループ・フレーズとして読み込むこともできます。

取扱説明書（本書）

最初に読んでください。使いかたの基本操作を説明しています。

PDF マニュアル（Web からダウンロード）

- パラメーター・ガイド

本機のパラメーターの解説や、本機に収録されているリズム・パターンのリストを記載しています。

PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。

<http://jp.boss.info/manuals/>



2. 製品名「RC-202」を選んでください。



目次

主な仕様	2	バンク設定	12
RC-202 の概要	3	バンクを保存する	12
基本操作ガイド	4	RC-202 全体の設定 (システム設定)	13
オーバーダブのしかたを設定する	4	OUTPUT 端子／ヘッドホンの出力音量を調節する	13
テンポの設定	4	工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット)	13
リズムを鳴らす	4	USB でパソコンにつなぐ	14
録音／再生／オーバーダブ／クリア	4	USB ドライバーをインストールする	14
セットアップ	4	パソコンと RC-202 をつなぐ	14
入力レベルの調節	4	USB 機能を設定する	14
フレーズ・メモリー、バンクを選ぶ	5	USB でパソコンとファイルのやり取りをする (USB マス・ストレージ)	14
ディスプレイ	5	外部 MIDI 機器とつなぐ	16
トラックの設定	5	MIDI 端子について	16
フレーズ・メモリーを保存する	5	MIDI の設定	16
インプット FX、トラック FX	5	RC-202 → 外部 MIDI 機器の操作	16
機器をつなぐ	6	外部 MIDI 機器 → RC-202 の操作	17
入力レベルの調節	6	2 台の RC-202 をつなぐ	17
外部ペダルをつなぐ	6	トラブルシューティング	18
電源を入れる	7	エラー・メッセージ一覧	19
オート・オフ機能を設定する	7	安全上のご注意	20
ファンタム電源の設定	7	使用上のご注意	20
実際のループ録音例	8		
1 つのトラックに録音する	9		
複数のトラックに録音する	9		
保存する	9		
フレーズ・メモリーの保存	10		
フレーズ・メモリーを保存する (ライト)	10		
フレーズ・メモリーを削除する (デリート)	10		
トラック 1、2 の設定	11		
トラックの再生レベルを調節する	11		
トラックの再生方法を設定する	11		
トラックを逆再生する (リバース)	11		
録音／オーバーダブの取り消し (アンドゥ)	11		
トラックの再生方法を設定する (ループ／ワン・ショット)	11		

主な仕様

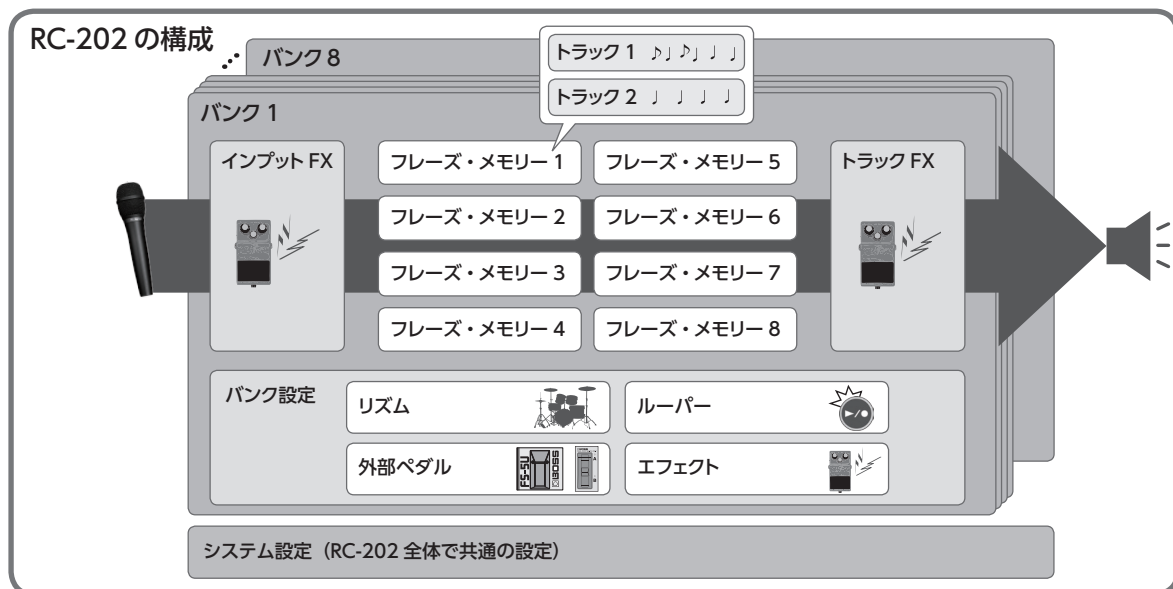
BOSS RC-202 : ループ・ステーション

録音／再生	最大録音時間：約 3 時間 (ステレオ) 最大保存フレーズ・メモリー数：8 メモリー×8 バンク トラック数：2 データ形式：WAV (44.1kHz、16 ビット・リニア、ステレオ)
電源	AC アダプター
消費電流	400mA
外形寸法	239 (幅) × 175 (奥行) × 55 (高さ) mm
質量	0.95kg (AC アダプターを除く)

付属品	AC アダプター 取扱説明書 「安全上のご注意」チラシ 保証書 ローランド ユーザー登録カード
別売品	フットスイッチ：FS-5U、FS-6、FS-7 エクスペディション・ペダル： Roland EV-5、FV-500L、FV-500H

※ 製品の仕様や外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

RC-202 の概要



トラック 1、2 (P.11) とフレーズ・メモリーとは？

RC-202 は、2 つの「トラック」に楽器やマイクの音や声を録音したり再生したりします。

これら 2 つのトラックの組み合わせを「フレーズ・メモリー」と呼びます。フレーズ・メモリーは 1 つのバンクに最大 8 種類記憶することができます。

リズムとは？ (P.4)

RC-202 は、2 つのトラックの再生に加えて「リズム」を鳴らすことができます。あらかじめ設定したテンポでリズムを鳴らしながら、録音することができます。



インプット FX、トラック FX とは？ (P.5)

入力音とトラックの音に、それぞれエフェクトをかけることができます。

これらのエフェクトのことを「インプット FX」、「トラック FX」と呼びます。



バンクとは？

「バンク」は、「フレーズ・メモリー」、「インプット FX」、「トラック FX」、「バンク設定」を 1 つにまとめたものです。

RC-202 には、8 つのバンクがあります。

バンク設定とは？ (P.12)

バンクごとに、リズム／ルーパー／外部ペダル／エフェクトに関する設定をします。

システム設定とは？ (P.13)

オート・オフ (自動電源オフ)、USB、MIDI など、RC-202 全体で共通の設定を「システム設定」と呼びます。

「録音」と「オーバーダブ」

本書では、空のトラックに最初に録音することを「録音」、録音した音にさらに音を重ねる 2 周目以降の録音を「オーバーダブ」と呼びます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

RC-202 基本操作ガイド

オーバーダブのしかたを設定する

オーバーダブのしかたを設定します。

オーバーダブ (消灯)	すでに録音されているトラックに新たな演奏を重ね録りします。オーバーダブを繰り返すと、次々に演奏を重ね録りするので、1つのトラックでアンサンブルを作成することもできます。
リプレイス (赤点灯)	すでに録音されているトラックを消去して新たに録音します。

テンポの設定

リズムのテンポ（フレーズ・メモリー共通のテンポ）を設定します。

タップ・テンポ

設定したいテンポに合わせて、**[TAP TEMPO]** ボタンを数回押す。

設定値 40.0 ~ 250.0

テンポの変更

1. **[TAP TEMPO]** ボタンを押す。
2. **[VALUE]** つまみを回して、テンポを変更する。

元のテンポに戻す

[TAP TEMPO] ボタンを 2 秒以上押すと、フレーズ・メモリーに保存されているテンポに切り替わりします。

メモ

[VALUE] つまみを押しながら回すと、小数点以下の値を設定できます。

リズムを鳴らす

RC-202 は、2 つのトラック再生に加えて「リズム」を鳴らすことができます。あらかじめ設定したテンポでリズムを鳴らしながら録音することで、正確なテンポで録音できます。



リズムを鳴らす

[RHYTHM START/STOP] ボタンを押す。

リズムの音量や設定を変更する

- ・「バンク設定」(P.12) の手順で設定する。
- ・**[RHYTHM START/STOP]** ボタンを長押しする。

12 ページ

セットアップ

バンク設定とシステム設定を設定します。

バンク設定

12 ページ

リズム、再生方法、外部ペダルなど、バンクごとの設定をします。

システム設定

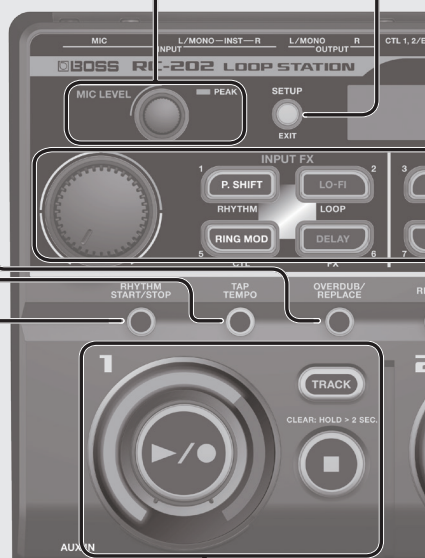
13 ページ

オート・オフ（自動電源オフ）、USB、MIDI など、RC-202 全体で共通の設定をします。

入力レベルの調節

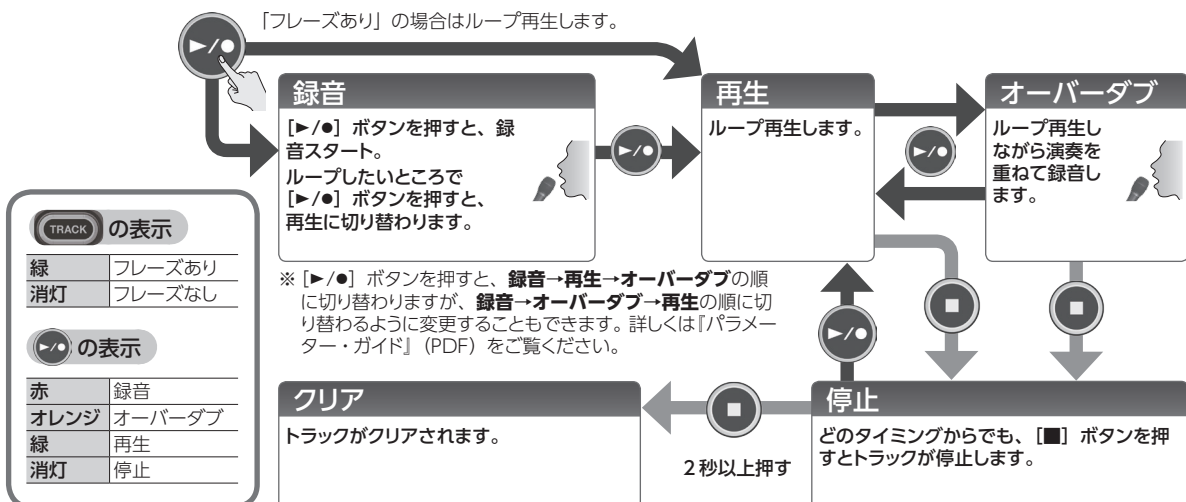
マイクの入力レベルを調節します。

6 ページ



録音／再生／オーバーダブ／クリア

録音／再生／オーバーダブは、図のように **[▶/●]** ボタンを押して切り替えます。



フレーズ・メモリー、バンクを選ぶ

フレーズ・メモリーを選ぶ

1. [MEMORY] ボタンを押す。
2. [P. SHIFT] (1) ~ [DELAY] (8) ボタンで、フレーズ・メモリーを選ぶ。

または

プレイ画面で、[VALUE] つまみを回して、フレーズ・メモリーを選ぶ。

バンクを選ぶ

1. [MEMORY] ボタンを押す。
2. [VALUE] つまみを回して、バンクを選ぶ。
3. [P. SHIFT] (1) ~ [DELAY] (8) ボタンで、フレーズ・メモリーを選ぶ。

または

プレイ画面で、[VALUE] つまみを押しながら回して、バンクを選ぶ。

ディスプレイ

操作に応じていろいろな情報を表示します。

起動時の画面 (プレイ画面)



バンク・ナンバー フレーズ・メモリー・ナンバー

フレーズ・メモリーを保存する

録音や設定を変更したあとに、別のフレーズ・メモリーを選んだり電源を切ったりすると、録音した内容や設定は消えてしまいます。大事なデータは保存しましょう。

1. [WRITE] ボタンを押す。
2. [P. SHIFT] (1) ~ [DELAY] (8) ボタンを押して、保存先のフレーズ・メモリーを選ぶ。
3. [WRITE] ボタンを押して、保存する。

10 ページ

インプット FX、トラック FX

入力音とトラックの音に、それぞれエフェクトをかけることができます。

エフェクトをオンにする

[P. SHIFT] ~ [DELAY] ボタンを押して、点灯させる。

エフェクトをオフにする

点灯している [P. SHIFT] ~ [DELAY] ボタンを押して、消灯させる。

エフェクトをコントロールする

[INPUT FX] / [TRACK FX] つまみを回す。

エフェクトをエディットする

1. [P. SHIFT] ~ [DELAY] ボタンを押して点滅させる。
2. [VALUE] つまみを回して、タイプを選ぶ。
3. [VALUE] つまみを押しパラメーターを選び、[VALUE] つまみを回して値を変更する。
4. [TRACK] ボタンを押して点滅させて、エフェクトをかけるトラックを選ぶ (トラック FX のみ)。
5. [SETUP] (EXIT) ボタンを押して、プレイ画面に戻る。



エフェクト・ボタンの表示

紫点滅*	エディット中
紫点灯*	オン
赤点灯	オン
消灯	オフ

*: [INPUT FX] / [TRACK FX] つまみが有効なエフェクト

トラックの設定

トラックの再生レベルや再生方法を設定します。

再生レベルを調節する

1. [TRACK] ボタンを押す。
2. [VALUE] つまみを回して、再生レベルを調節する。

再生方法の設定をする

1. 設定する機能のボタンを押す。

[REVERSE] ボタン	通常再生するか、リバース再生するかを設定します。
[UNDO/REDO] ボタン	各トラックの録音／オーバーダブを取り消すことができます。
[LOOP/1 SHOT] ボタン	通常のループ再生にするか、ワン・ショット再生するかを設定します。

2. [TRACK] ボタンを押して、設定を切り替える。

11 ページ

インプット FX

P. SHIFT	ピッチを変化させることができるエフェクトです。
LO-FI	意図的に音質を劣化させて、独特な雰囲気を作り出します。
RING MOD	金属的な音を作り出し、音が集束していくような感じを作り出します。
DELAY	ダイレクト音から遅れた音 (ディレイ音) を加えることにより、音に厚みを付けたり、特殊効果を作り出したりします。

トラック FX

BEAT	トラックが、ビート (拍) に合わせてリピート再生します。
FILTER	特定の周波数帯域をカットして、音の明るさや音の太さなどを変化させます。
SLICER	音を連続的にカットすることで、普通に音を鳴らしているだけで、パッキング・フレーズを刻んでいるような効果を作り出します。
DELAY	ダイレクト音から遅れた音 (ディレイ音) を加えることにより、音に厚みを付けたり、特殊効果を作り出したりします。

参照

パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

機器をつなぐ

[POWER] スイッチ

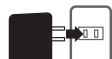
電源をオン/オフします。

7 ページ

DC IN 端子

付属の AC アダプターをつなぎます。

※ 必ず付属の AC アダプターをお使いください。他のアダプターをお使いになりますと、発熱・故障の原因となります。



入力レベルの調節

最大音量のとき、PEAK インジケーターが時々オレンジ色に点灯するように、[MIC LEVEL] つまみを調節してください。

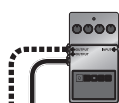
INPUT INST 端子や AUX IN 端子につないだ機器の入力レベルは、つないだ機器側で調節してください。



色	入力レベル
緑	小
オレンジ	適切
赤	大きすぎる

INPUT INST 端子

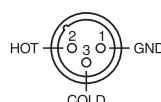
エフェクターなどをつなぎます。
ステレオ出力のエフェクターをつなぐときは L 端子と R 端子を、モノで使用するときは L 端子のみをご使用ください。



INPUT MIC 端子

マイクをつなぎます。
➔ 「ファンタム電源の設定」(P.7)

※ INPUT MIC 端子のピン配置



USB 端子

USB ケーブルでパソコンにつないで、RC-202 のトラック (WAV ファイル) をパソコンで読み書きします。

また、USB AUDIO でパソコンの音を RC-202 で鳴らしたり、USB MIDI でパソコンの DAW とテンポ同期したりすることもできます。



14 ページ

MIDI 端子

MIDI 機器を接続します。

16 ページ

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞って、すべての機器の電源を切ってください。

※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの (別売: Roland EV-5、FV-500H/L) をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

OUTPUT 端子



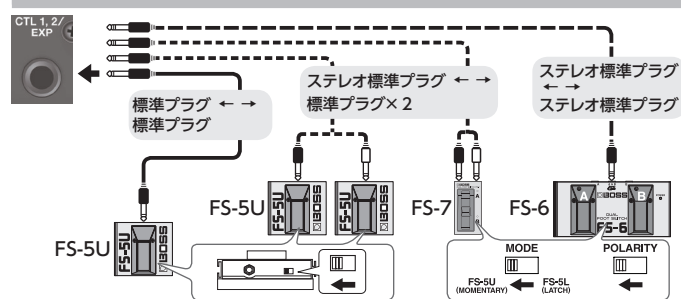
アンプやモニター・スピーカーにつなぎます。
モノで使用するときは L 端子のみをご使用ください。ステレオで入力した音もモノで出力されます。

CTL 1, 2/EXP 端子



エクスプレッション・ペダル (別売: Roland EV-5、FV-500H/L) やフットスイッチ (別売: FS-5U、FS-7、FS-6) をつなぐと、さまざまなパラメーターをコントロールすることができます。詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

外部ペダルをつなぐ



※ モノ・ケーブルで 1 台の FS-5U をつなぐ場合は CTL 1 になります。



AUX IN 端子

オーディオ・プレーヤーなどをステレオ・ミニ・プラグでつなぎます。

AUX 端子の入力レベルは、つないだ機器（オーディオ・プレーヤーなど）の音量で調節してください。



ヘッドホン端子

ヘッドホン（別売）をつなぎます。

メモ

ヘッドホンの音量を調節することができます（P.13）。



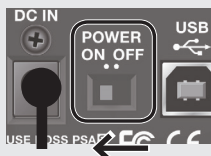
リズム音をヘッドホンのみに出力する

リズムをクリック音として、ヘッドホンのみに出力することができます。詳しくは『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

電源を入れる

電源を入れるとき	アンプなどの電源を最後にしてください。
電源を切るとき	アンプなどの電源を最初に切ってください。

1. [POWER] スイッチをオンにして電源を入れます。



メモ

出力音量を調節することができます（P.13）。

電源を切るときの注意

以下の状態では絶対に電源を切らないでください。保存しているデータがすべて失われることがあります。

- 録音／オーバーダブ／再生の途中
- アンドゥ／リドゥの途中
- フレーズ・メモリーの切り替え中／保存中／削除中
- ファクトリー・リセット中
- パソコンとの接続中

マイク使用時の注意

マイクとスピーカーが近づいていると、スピーカーからの再生音をマイクが拾うことがあります。このような状態で録音やオーバーダブをすると、マイクが拾ったスピーカーの再生音も記録されます。スピーカーとマイクを離すなどして、マイクがスピーカーからの再生音を拾わないようにしてください。

オート・オフ機能を設定する

本機は演奏や操作をやめてから 10 時間経過すると、自動的に電源が切れます（工場出荷時の設定）。

自動で電源を切る必要がない場合は、「オート・オフ」を「OFF」に設定します。

1. [SETUP] ボタンを押します。
2. [DELAY] (GENERAL) ボタンを押します。
3. [VALUE] つまみを押して、「RoF」を選びます。
4. [VALUE] つまみを回して、値を変更します。

oFF	自動で電源が切れません。
oN	演奏や操作をやめてから 10 時間経過すると、自動的に電源が切れます。

5. [SETUP] (EXIT) ボタンを押して、設定を終了します。

ファンタム電源の設定

ファンタム電源が必要なコンデンサー・マイクを使用する場合は、以下の設定でファンタム電源をオンにしてください。

1. [SETUP] ボタンを押します。
2. [BEAT] (I/O) ボタンを押します。
3. [VALUE] つまみを押して、「U48」を選びます。
4. [VALUE] つまみを回して、「oN」を選びます。
5. [SETUP] (EXIT) ボタンを押して、設定を終了します。

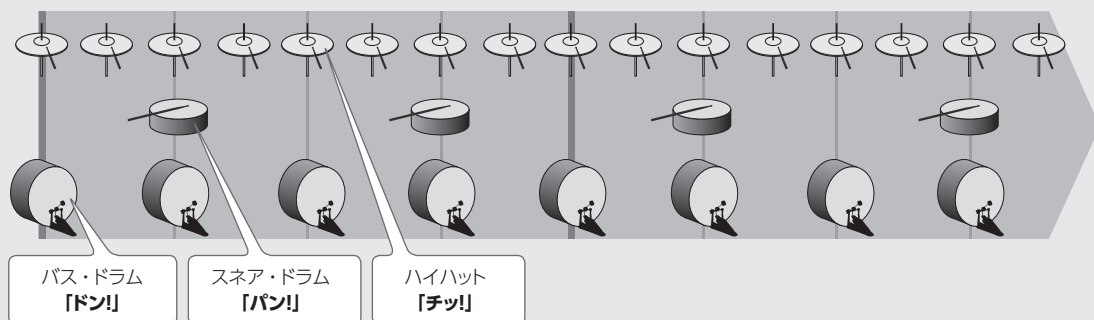
※ 警告：ファンタム電源供給に必要なコンデンサー・マイクをつないだとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。



ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください（本機のファンタム電源：DC 48V、10mA Max）。

実際のループ録音例

それではマイクを使ったボイス・パーカッション（ドラムの音を声で表現する手法）で、以下のシンプルな 8 ビートのフレーズをループ録音してみましょう。



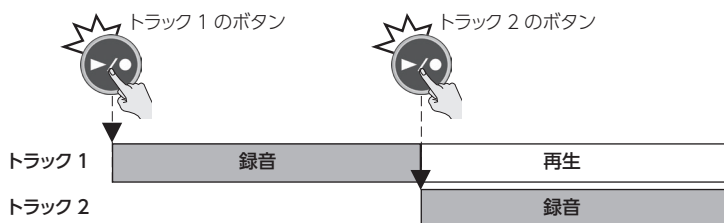
演奏の準備

1. マイクをつないで、入力レベルを調節します（「入力レベルの調節」(P.6)）。
2. 空のフレーズ・メモリー（すべてのトラックの [TRACK] ボタンが消灯）を選びます (P.5)。

録音／オーバーダブできるトラック

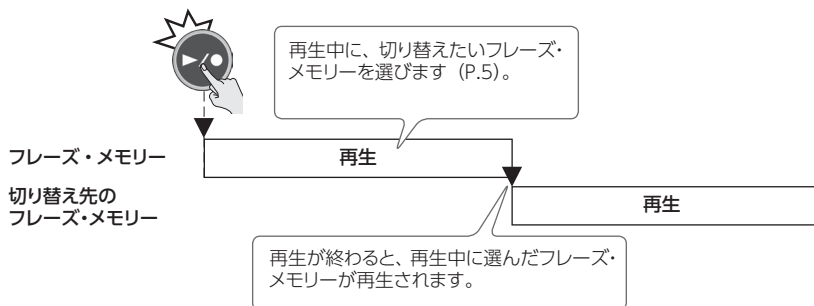
録音／オーバーダブできるトラックは 1 つのみです。

たとえば、全トラックが空のフレーズ・メモリーの場合、トラック 1 の録音中にトラック 2 の [▶/●] ボタンを押すと、トラック 1 は再生状態になり、トラック 2 が録音になります。



フレーズ・メモリーを切り替えながら再生する

フレーズ・メモリーを切り替えながら再生することができます。



エフェクトをかけながら録音／再生する

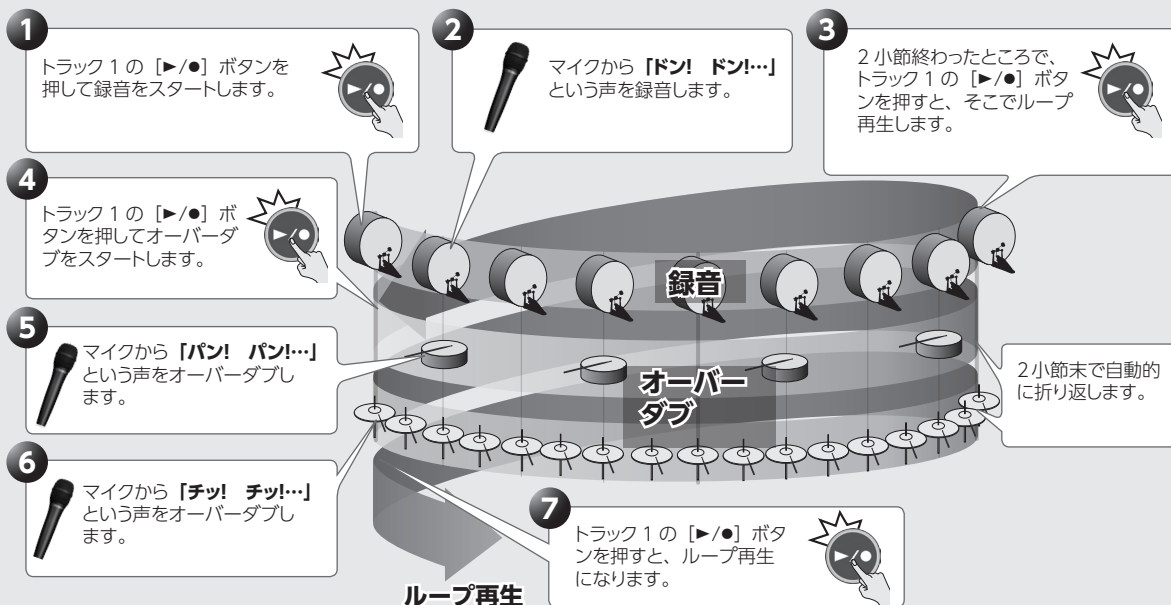
RC-202 は、録音／再生中にエフェクトをオン／オフしたり、エフェクトのかかりかたをリアルタイムにコントロールしたりすることができます。

たとえば、トラック FX の FILTER をオンにすると、[TRACK FX] つまみを回してカットオフ周波数を変化させることができます。



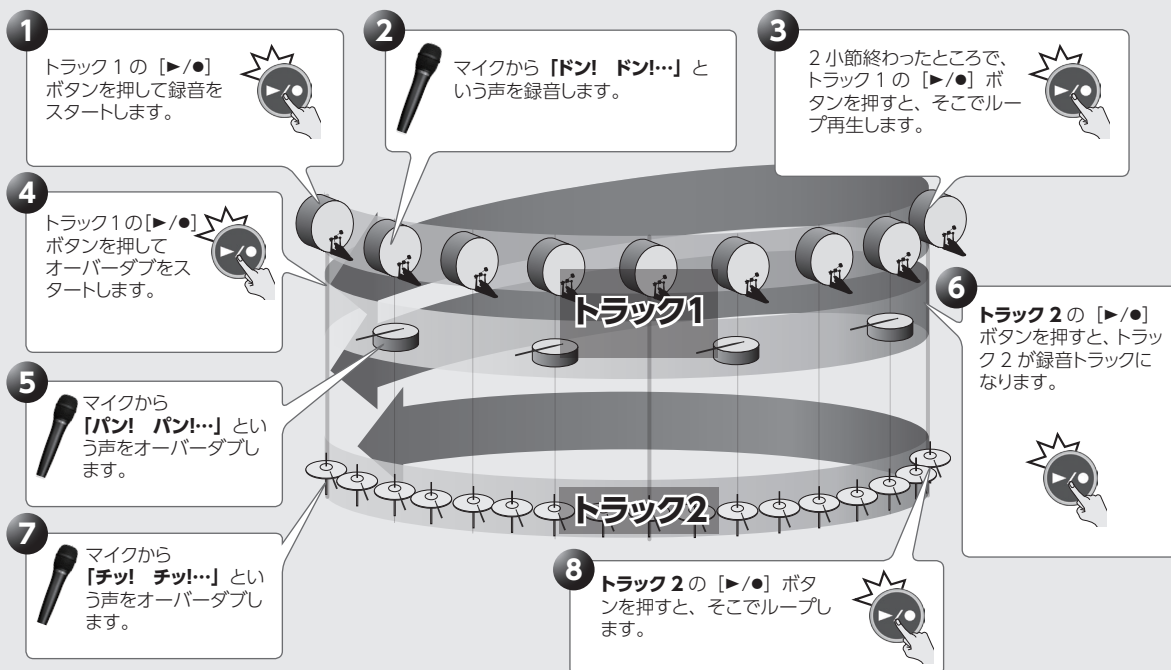
1 つのトラックに録音する

トラック 1 にすべての音をオーバーダブしていく方法を説明します。



複数のトラックに録音する

トラック 1 にバス・ドラムの音とスネア・ドラムの音、トラック 2 にハイハットの音を録音します。複数のトラックに録音することで、「ハイハット (トラック 2) だけストップ」といったパフォーマンスをすることができます。



保存する

録音したら、フレーズ・メモリーを保存しましょう。

フレーズ・メモリーの保存

フレーズ・メモリーを保存する（ライト）

録音や設定を変更したあとに、別のフレーズ・メモリーを選んだり電源を切ったりすると、録音した内容や設定は消えてしまいます。大事なデータは保存しましょう。

メモ

- フレーズ・メモリーを保存すると、バンクの設定も自動的に保存されます。
- 再生中に保存することもできます。

1. [WRITE] ボタンを押します。



2. [P. SHIFT] (1) ～ [DELAY] (8) ボタンを押して、保存先のフレーズ・メモリーを選びます。



- 現在選んでいるフレーズ・メモリーに保存する場合は、この手順は不要です。
- すでにデータが保存されているフレーズ・メモリー・ナンバー（ボタン点灯）は、上書き保存することができません。
- [VALUE] つまみを回して保存先のバンクを切り替えることができます。
- メモリーの不足でフレーズ・メモリーが保存できない場合は、ディスプレイに「ERR」が表示されます。このような場合は、不要なフレーズ・メモリーを削除して、録音をやり直してください。

3. [WRITE] ボタンを押して、フレーズ・メモリーを保存します。

保存を中止するときは、[SETUP] (EXIT) ボタンを押してください。

フレーズ・メモリーを削除する（デリート）

選んだフレーズ・メモリーを削除します。

※ この機器には、デモ・データ（バンク 8）が収録されています。一度削除してしまうと元に戻すことはできません。最初に「パソコンにバックアップする」(P.15) の手順でバックアップしてください。

1. [WRITE] ボタンを 2 秒以上押し続けます。

2. [P. SHIFT] (1) ～ [DELAY] (8) ボタンを押して、削除するフレーズ・メモリーを選びます。

3. [WRITE] ボタンを押して、フレーズ・メモリーを削除します。

削除を中止するときは、[SETUP] (EXIT) ボタンを押してください。

ご注意！

- ※ 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などにより、失われることがあります。大切な記憶内容は「パソコンにバックアップする」(P.15) の手順でバックアップしてください。
- ※ 修理の際には、記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。
- ※ 本体メモリーの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。

トラック 1、2 の設定

トラックの再生レベルを調節する

1. 設定する [TRACK] ボタンを押します。

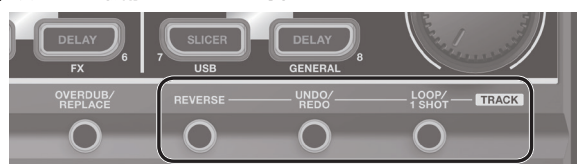
ボタンが緑色に点滅します。



2. [VALUE] つまみを回して、再生レベルを調節します。

トラックの再生方法を設定する

1. 設定する機能のボタンを押します。



2. 設定する [TRACK] ボタンを押します。

外部ペダルでコントロールするトラックを選ぶ

[TRACK] ボタンを 2 回連続で押します。

押したボタンのトラックが、外部ペダルでコントロールするトラックになります。

参照

外部ペダルでコントロールできる機能については、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

ボタン	[TRACK] ボタン	説明
[REVERSE] ボタン	トラックを逆再生する (リバース)	
	通常再生するか、リバース再生するかを設定します。 ※ リバース再生に設定しているときは、録音終了後にオーバーダブに切り替えはできません。	
	消灯	通常再生します。
	紫	リバース再生します。
[UNDO/REDO] ボタン	録音／オーバーダブの取り消し (アンドゥ)	
	各トラックの録音／オーバーダブを取り消すことができます。	
	1. [UNDO/REDO] ボタンを押します。	
	2. アンドゥ／リドゥするトラックの [TRACK] ボタンを押します。 ※ リドゥできるのは、オーバーダブのみです。	
	3. 通常状態に戻るときは、もう一度 [UNDO/REDO] ボタンを押します。	
[LOOP/1 SHOT] ボタン	オレンジ	アンドゥ可能
	赤	リドゥ可能
	消灯	アンドゥ／リドゥ不可
	トラックの再生方法を設定する (ループ／ワン・ショット)	
[LOOP/1 SHOT] ボタン	通常のループ再生にするか、ワン・ショット再生するかを設定します。	
	トラック 1	ワン・ショット：オフ ☐ ☐ ☐ ☐
	トラック 2	ワン・ショット：オン ☒ ☐ ☐ ☐
	ワン・ショットがオンときは、フレーズの長さまでくと停止します。	
[LOOP/1 SHOT] ボタン	消灯	通常のループ再生です。
	青	トラックの先頭から最後までを 1 度だけ再生して、自動的に停止します (ワン・ショット再生)。 再生中に [▶/●] ボタンを押すと、トラックの先頭から再び再生が開始されます (リトリガー再生)。オーバーダブはできません。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

バンク設定

バンクごとに、リズム／ルーパー／外部ペダル／エフェクトに関する設定をします。

1. 設定するバンクを選びます。

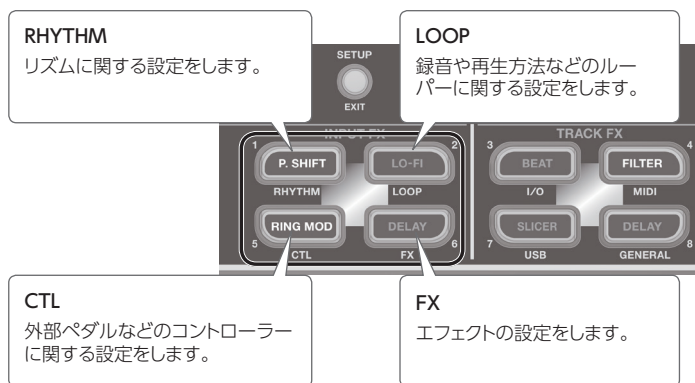
1. [MEMORY] ボタンを押します。
2. [VALUE] つまみを回します。
3. [P. SHIFT] (1) ～ [DELAY] (8) ボタンで、フレーズ・メモリーを選びます。

または

プレイ画面で、[VALUE] つまみを押しながら回します。

4. [SETUP] ボタンを押します。

5. ボタンを押して、設定するカテゴリーを選びます。



6. [VALUE] つまみを押ししてパラメーターを選び、[VALUE] つまみを回して値を変更します。

参照

パラメーターやリズム・パターンの詳細については、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

7. [SETUP] (EXIT) ボタンを押して、プレイ画面に戻ります。

バンクを保存する

バンクの設定を変更したあとに、別のバンクを選んだり電源を切ったりすると、設定は消えてしまいます。大事なデータは保存しましょう。

1. バンクに含まれるフレーズ・メモリーのいずれか 1 つを保存します (P.10)。

フレーズ・メモリーを保存すると、バンクの設定も自動的に保存されます。

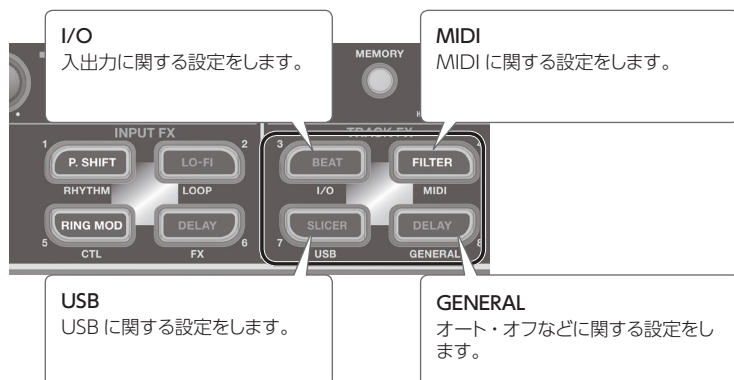
ご注意！

- ※ 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などにより、失われることがあります。大切な記憶内容は「パソコンにバックアップする」(P.15) の手順でバックアップしてください。
- ※ 修理の際には、記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。
- ※ 本体メモリーの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。

RC-202 全体の設定（システム設定）

オート・オフ（自動電源オフ）、USB、MIDI など、RC-202 全体で共通の設定を「システム設定」と呼びます。

1. [SETUP] ボタンを押します。
2. ボタンを押して、設定するカテゴリーを選びます。



3. [VALUE] つまみを押してパラメーターを選び、[VALUE] つまみを回して値を変更します。

参照

パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

4. [SETUP] (EXIT) ボタンを押して、プレイ画面に戻ります。

OUTPUT 端子／ヘッドホンの出力音量を調節する

RC-202 の出力音量を調節します。

1. [SETUP] ボタンを押します。
2. [BEAT] (I/O) ボタンを押します。
3. [VALUE] つまみを押してパラメーターを選び、[VALUE] つまみを回して値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
oLU	0 ～ 100	OUTPUT 端子の出力音量を調節します。
PLU	0 ～ 100	ヘッドホンの音量を調節します。

4. [SETUP] (EXIT) ボタンを押して、プレイ画面に戻ります。

工場出荷時の設定に戻す（ファクトリー・リセット）

RC-202 のシステム設定を工場出荷時の設定に戻すことを「ファクトリー・リセット」と呼びます。

ファクトリー・リセットは、システム設定を工場出荷時の設定に戻すことと、すべてのバンクを（初期化）することができます。

※ この機器には、デモ・データ（バンク 8）が収録されています。ファクトリー・リセットの「ALL」または「bB」を実行するとデモ・データも消去され、元に戻すことはできません。最初に「パソコンにバックアップする」（P.15）の手順でバックアップしてください。

1. [SETUP] (EXIT) ボタンと [MEMORY] ボタンを同時に長押しします。

ファクトリー・リセットの範囲設定画面が表示されます。

2. [VALUE] つまみで、工場出荷時の設定に戻す設定の範囲を指定します。

設定値	説明
ALL	システム設定を工場出荷時の設定に戻し、すべてのバンクを削除（初期化）
SYS	システム設定を工場出荷時の設定に戻す
b1～b8	選んだバンクを削除（初期化）

※ 「ALL」または「b1～b8」を実行すると RC-202 のバンクは初期化され、元に戻すことはできません。

3. ファクトリー・リセットを実行するときは、[WRITE] ボタンを押します。

ファクトリー・リセットが完了すると、プレイ画面に戻ります。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

USB でパソコンにつなぐ

USB ケーブルを使用して、RC-202 の USB 端子とお使いのパソコンの USB 端子を接続すると以下のようなことができます。



USB マス・ストレージ

RC-202 のトラック (WAV ファイル) をパソコンにバックアップしたり、パソコンの WAV ファイルを RC-202 に書き込んだりすることができます。

USB オーディオ / MIDI

パソコンの音を RC-202 から鳴らしたり、RC-202 の音をパソコンに録音したりできます。また USB MIDI を使って、パソコンの DAW とテンポ同期することができます。

参照

RC-202 の USB 設定に関するパラメーターについては、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

USB ドライバーをインストールする

USB オーディオ / MIDI を使うには、最初に USB ドライバーをインストールする必要があります (USB マス・ストレージは USB ドライバーをインストールしなくても動作します)。

1. USB ドライバーを、パソコンにインストールします。

RC-202 専用ドライバーは、ボスのホームページからダウンロードできます。

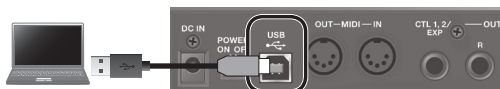
ボスのホームページ

<http://jp.boss.info/support/>

動作条件については、ボスのホームページをご覧ください。ドライバーはご使用の環境によってインストールするプログラム、手順が異なります。ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をよく読んで上でお使いください。

パソコンと RC-202 をつなぐ

1. RC-202 の USB 端子とパソコンの USB 端子を USB ケーブル (USB2.0 Hi-Speed 対応のもの) でつなぎます。



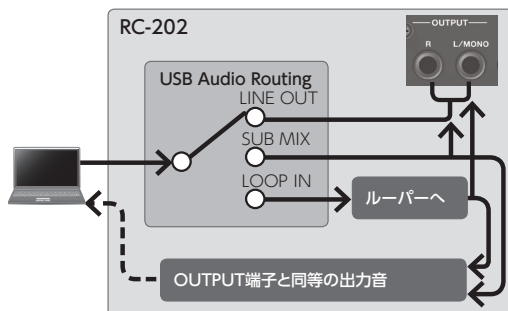
ご注意!

- パソコンの機種によっては、正しく動作しないことがあります。対応 OS については、ボスのホームページをご覧ください。
- USB ケーブルは、USB2.0 Hi-Speed 対応のものをお使いください。

USB 機能を設定する

USB の出力先を設定することができます。詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

USB オーディオの流れ



USB でパソコンとファイルのやり取りをする (USB マス・ストレージ)

USB ケーブルでパソコンにつないで、RC-202 のトラック (WAV ファイル) をパソコンにバックアップしたり、パソコンの WAV ファイルを RC-202 に書き込んだりすることができます。

再生可能な WAV ファイルのフォーマット

データ形式	WAV データ
ビット数	16 ビット・リニア、ステレオ
サンプリング周波数	44.1kHz

WAV ファイル 1 つあたりの最大サイズは 2GB、最大時間は約 3 時間です。

1. [SETUP] ボタンを押します。
2. [SLICER] (USB) ボタンを押します。
3. [VALUE] つまみを押して、[*nd*] を選びます。
4. [VALUE] つまみを回して、[*MSG*] を選びます。
5. [SETUP] (EXIT) ボタンを押します。
6. RC-202 の USB 端子とパソコンの USB 端子を USB ケーブル (USB2.0 Hi-Speed 対応のもの) でつなぎます。

パソコンとの間で接続が完了すると、[.] と表示されます。

※ 停止状態でないときや、保存していないフレーズがあるときは USB 接続できません。

7. 以下の手順でバックアップをします。

Windows の場合

コンピューター（またはマイコンピューター）内の
[BOSS_RC-202]（またはリムーバブルディスク）
を開きます。

Mac OS の場合

デスクトップの [BOSS_RC-202] アイコンを開き
ます。

パソコンにバックアップする

BOSS_RC-202 ドライブの [ROLAND] フォルダーごと
とパソコンにコピーします。

パソコンにバックアップしたデータを RC-202 に 復元（リカバリー）する場合

※ この操作をすると、現在 RC-202 に保存されている
フレーズ・メモリーは消えてしまいます。最初にバック
アップしてください。

BOSS_RC-202 ドライブの [ROLAND] フォルダー
を削除してから、パソコンにバックアップしてある
[ROLAND] フォルダーを BOSS_RC-202 ドライブにコ
ピーします。

パソコンの WAV ファイルを個別に RC-202 の フレーズ・メモリーに書き込む場合

BOSS_RC-202 ドライブの [ROLAND] - [WAVE] フォ
ルダーの中にある [001_1]、[001_2] ~ [064_1]、
[064_2] フォルダーにパソコンの WAV ファイルを書
き込みます（[0XX_Y] フォルダーの XX はフレーズ・
メモリーの番号、Y はトラックの番号です）。

ご注意！

- ※ 復元（リカバリー）するとき以外は、BOSS_RC-202
ドライブ内のフォルダーは削除しないでください。
- ※ ファイル名には次の文字が使用でき
ます（全角文字は使用できません）。
A ~ Z（アルファベット大文字）、0 ~ 9（数字）、_（
アンダースコア）
- ※ 各フォルダーに複数の WAV ファイルを置かないで
ください。また、すでにフォルダーに WAV ファイル
がある場合は、上書きしないでください。WAV ファ
イルは空のフォルダーに書き込んでください。

8. コピーが終わったら、以下の手順で USB ドライ ブの取り出しをします。

Windows の場合

画面右下の [] → [] アイコンから「BOSS_
RC-202 の取り出し」をクリックします。

Mac OS の場合

[BOSS_RC-202] アイコンをゴミ箱
（「取り出し」アイコン）にドラッグします。

9. RC-202 の [SETUP] ボタンを押します。

「H/E」が表示されます。

10. 接続を切断するには、RC-202 の [WRITE] ボ タンを押します。

ご注意！

※ ドライブ [BOSS_RC-202] は絶対にパソコンでフォー
マットしないでください。 RC-202 が正しく動作しな
くなります。

この場合は「工場出荷時の設定に戻す
（ファクトリー・リセット）」（P.13）の操作で RC-
202 を初期化すると正常動作するようになりますが、
デモ・データを含むすべてのフレーズ・メモリーは
失われて元に戻すことができません。

※ USB ドライブの取り出しをするまでは、絶対に以下
の操作をしないでください。 パソコンが応答しない
状態になったり、RC-202 のデータがすべて失われたり
することがあります。

- USB ケーブルを抜く。
- パソコンをサスペンド（スタンバイ）、休止
（ハイバネーション）、再起動、終了する。
- RC-202 の電源を切る。

※ 本体メモリーの失われた記憶内容の修復に関しまして
は、補償を含めご容赦願います。

外部 MIDI 機器とつなぐ

MIDI 端子について

以下の MIDI 端子は、MIDI 情報のやり取りに使用します。使いかたに応じて、これらの端子に MIDI ケーブルをつなぎます。

端子	説明
MIDI IN	他の MIDI 機器からの情報を受ける。
MIDI OUT	本機からの情報を送る。



メモ

USB 端子とパソコンを USB ケーブルでつないで、USB MIDI でパソコンと MIDI 情報のやり取りをすることもできます。詳しくは「USB でパソコンにつなぐ」(P.14) をご覧ください。

MIDI の設定

参照

RC-202 の MIDI 設定に関するパラメーターについては、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

※ MIDI では、接続する機器との間で MIDI チャンネルを合わせる必要があります。RC-202 の MIDI チャンネルは「1」です (工場出荷時の設定)。MIDI チャンネルが正しく設定されていないと、他の MIDI 機器とのデータ送受信はできません。

RC-202 → 外部 MIDI 機器の操作

動作	概要	説明
テンポ情報、再生／停止情報の送信	RC-202 の演奏テンポの情報を、MIDI クロックとして外部 MIDI 機器に送信できます。	外部 MIDI 機器を RC-202 と同じテンポにする RC-202 からは、常に MIDI クロック情報が出力されます。 外部 MIDI 機器は、あらかじめ MIDI クロック、MIDI スタート／ストップ情報を受信できるように設定してください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
	RC-202 のボタン操作による再生／停止を MIDI 情報のスタート／ストップとして送信できます。	スタート／ストップを送信する MIDI 情報のスタートは、トラックが停止中にトラックの再生の開始と同時に送信されます。 MIDI 情報のストップは、トラックが停止したタイミングで送信されます。 ※ ワン・ショット (P.11) が「ON」のトラックは、スタート／ストップを送信しません。
プログラム・チェンジ情報の送信	RC-202 でフレーズ・メモリーを選ぶと同時に、選んだフレーズ・メモリー・ナンバーに対応したプログラム・チェンジ情報が送信されます。	プログラム・チェンジを送信する RC-202 でフレーズ・メモリーを切り替えると、接続した外部 MIDI 機器へ MIDI のプログラム・チェンジ情報を送信します。1-1 ～ 8-8 の 64 個のフレーズ・メモリーに対応して、1 ～ 64 番のプログラム・チェンジ情報を送信することができます。 ※ あらかじめ、『MIDI プログラム・チェンジ・アウト』(➡ PDF) を「ON」に設定してください。 ※ プログラム・チェンジで 65 ～ 128 番を送信することはできません。 ※ MIDI 情報のバンク・セレクト (コントロール・チェンジ #0、#32) を送信することはできません。

外部 MIDI 機器→ RC-202 の操作

動作	概要	説明
テンポ情報、再生／停止情報の受信	外部 MIDI 機器からの MIDI クロックのテンポに RC-202 を同期します。	RC-202 を外部 MIDI 機器と同じテンポにする 外部 MIDI 機器は、あらかじめ MIDI クロック、MIDI スタート／ストップ情報を送信するように設定してください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。 RC-202 の MIDI シンク (➡ PDF) を「AUTO」にしてください。 ※ 録音中はテンポの切り替えはできません。
	外部 MIDI 機器からのスタート／ストップを受信して RC-202 を再生／停止します。	MIDI スタートを受信する MIDI スタート (FA) を受信すると、すべてのトラックが再生され、MIDI ストップ (FC) を受信すると、すべてのトラックが停止されます。
フレーズ・メモリー・ナンバーの切り替え	外部 MIDI 機器からのプログラム・チェンジ情報に対応して、RC-202 のフレーズ・メモリーが切り替わります。	フレーズ・メモリーを切り替える 外部 MIDI 機器からのプログラム・チェンジ情報で、RC-202 のフレーズ・メモリーを切り替えることができます。 1-1 ～ 8-8 の 64 個のフレーズ・メモリーに対応して、1 ～ 64 番のプログラム・チェンジ情報を受信することができます。 ※ プログラム・チェンジで 65 ～ 128 番を受信しても何もおきません。 ※ MIDI 情報のバンク・セレクト (コントロール・チェンジ #0、#32) を受信しても無視されます。
コントロール・チェンジ情報の受信	外部 MIDI 機器からのコントロール・チェンジ情報によって、RC-202 を操作することができます。	コントロール・チェンジ情報を受信する 外部 MIDI 機器からのコントロール・チェンジ情報を利用することで、RC-202 本体の操作子だけでは操作が難しい機能を外部 MIDI 機器で操作することができます。 『操作子を設定する (CTL ソース)』 (➡ PDF) で「CC#80 ～ #84」を選んで、『操作対象を設定する (CTL ターゲット)』 (➡ PDF) で操作するパラメーターを選びます。

2 台の RC-202 をつなぐ

2 台の RC-202 を MIDI ケーブルでつないで、同期させることができます。

- 市販の MIDI ケーブルで以下のようにつなぎます。



- マスター側の RC-202 のトラックから録音を開始します。

トラブルシューティング

症状	確認事項	対策	ページ
音に関するトラブル			
音が出ない／音が小さい	接続ケーブルが断線していませんか？	接続ケーブルを交換してみてください。	-
	他の機器と正しく接続されていますか？	他の機器との接続を確認してください。	P.6
	接続しているアンプ／ミキサーの電源が入っていないか、またはボリュームが下がっていませんか？	接続している機器の設定を確認してください。	-
	以下のレベルが下がっていませんか？ • トラックの再生レベル • アウトプット・レベル	各レベルを調節してください。 外部エクスプレッション・ペダルなどでレベルを調節する設定をしていないか確認してください。	P.11 P.13 ➡ PDF
	録音済みですか？	トラックの [TRACK] ボタンを見て録音済みかどうか確認してください。[TRACK] ボタンが消灯している場合は、録音されていません。	P.4
リズムが鳴らない	リズム・ライン・アウトは正しく設定されていますか？	リズム・ライン・アウトの設定を確認してください。	➡ PDF
	リズム・レベルが下がっていませんか？	リズム・レベルを調節してください。	➡ PDF
録音したトラックの先頭と終端の音が欠けて聞こえる	録音開始時と終了時には、ノイズが出ないようにフェード・イン、フェード・アウトの処理がされています。そのため、音が欠けて聞こえる場合があります。		-
AUX / INST / MIC 端子に接続している機器の音が聞こえない	[MIC LEVEL] つまみが下がっていませんか？	つまみを適切な位置に調節してください。	P.6
	接続した機器のボリュームは下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。	-
	システムのインプット・ライン・アウトが「OFF」になっていませんか？	インプット・ライン・アウトを「ON」にしてください。	➡ PDF
操作に関するトラブル			
フレーズ・メモリーが切り替わらない	ディスプレイの表示がプレイ画面以外になっていませんか？	RC-202 では、プレイ画面以外ではフレーズ・メモリーの切り替えができません。[SETUP] (EXIT) ボタンを押してプレイ画面に戻してください。	P.5
録音／オーバーダブが途中で終わってしまう	メモリーの残量が少なくなっていないですか？	メモリー不足の場合は、不要なフレーズ・メモリーを削除してから、録音／オーバーダブをしてください。	P.10
再生テンポが変わらない	録音中やオーバーダブ中ですか？	録音中やオーバーダブ中はフレーズ・メモリー・テンポを変更できません。停止中、再生中にテンポを変更してください。	P.4
	MIDI 同期中ですか？	MIDI IN 端子や USB 端子から MIDI クロックを受信すると、RC-202 は MIDI クロックにテンポ同期します。外部機器と同期したくない場合は MIDI シンクを「INTERNAL」に設定します。	➡ PDF
MIDI 情報を送受信しない	外部 MIDI 機器と MIDI チャンネルが一致していますか？	両方の機器の MIDI チャンネルが一致していることを確認してください。	-
	(RC-202 から送信する場合) 送信するための設定がされていますか？	プログラム・チェンジ情報送信のオン／オフの設定を確認してください。	-
USB に関するトラブル			
パソコンと通信できない	USB ケーブルは正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.14
	(USB でパソコンとファイルのやり取りをする場合) USB Mode を「H5G」にしていますか？	「USB でパソコンとファイルのやり取りをする (USB マス・ストレージ)」(P.14) の手順で USB Mode を「H5G」にしてください。	P.14
WAV ファイルを読み込めない	WAV ファイルのファイル名やフォーマットは正しいですか？	WAV ファイルのファイル名やフォーマットを確認してください。	P.15

エラー・メッセージ一覧

表示	意味	解決方法
E01	録音時間／WAV ファイルが長すぎるため、再生できません。	録音時間／WAV ファイルの長さを 3 時間以内にしてください。
E02	録音時間／WAV ファイルが短すぎるため、再生できません。	録音時間／WAV ファイルの長さを 0.1 秒以上にしてください。
E03	これ以上オーバーダブができません。	フレーズを保存し直してください。
E04	最大録音時間は約 3 時間（全フレーズ・メモリー合計）です。最大録音時間を超えると、本体メモリー不足のため、録音やオーバーダブが途中で終了してしまうことがあります。	不要なフレーズ・メモリーを削除（P.10）して、録音をやり直してください。
E05	受信した MIDI メッセージの量が多いため、正しく処理できませんでした。	RC-202 に送信する MIDI メッセージの量を少なくしてください。
E06	MIDI メッセージを正しく受信できませんでした。	不正な MIDI メッセージが送信されていないかを確認してください。 RC-202 に送信する MIDI メッセージの量を少なくしてください。
E07	MIDI ケーブルの接続に問題があります。	ケーブルの抜けや断線がないことを確認してください。
E08	フレーズ・メモリー保存時に、すでにデータが保存されているフレーズ・メモリーには上書き保存することができません。	空のフレーズ・メモリーを選んで保存してください（P.10）。
E09	停止状態でないときは、操作できません。	停止してから操作してください。
E10	トラックを、録音したときよりかなり速いテンポで再生させているため、正しく再生できない恐れがあります。	テンポを調節してください。
E11	トラックを、録音したときよりかなり遅いテンポで再生させているため、正しく再生できない恐れがあります。	
E12	再生不可能な WAV ファイルです。	WAV ファイルのフォーマットを確認してください。
E90	本体システムで、データが処理しきれませんでした。	演奏テンポを下げてください。 現在の内容をフレーズ・メモリーに保存してください。 本体上のつまみや外部ペダルの操作を控えめにしてください。 RC-202 に送信する MIDI メッセージの量を少なくしてください。 フレーズの長さが 0.1 秒以下にならないようにしてください。
E91	USB マス・ストレージ接続時（WAV ファイルの読み込みなど）に、不正なファイルが書き込まれた可能性があります。 または、USB マス・ストレージ接続時にパソコンで「BOSS RC-202」ドライブをフォーマットしたため、正常に動作しなくなりました。	ファクトリー・リセット（P.13）で「ALL」を選んで、RC-202 を工場出荷時の状態に戻してください。
E97	本体メモリーの内容に問題が発生しました。	お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご連絡ください。
E98		
E99	システムに問題が発生しました。	お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご連絡ください。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

安全上のご注意

⚠ 警告

オート・オフ機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（オート・オフ機能）。自動的に電源が切れないようにするには、オート・オフ機能を解除してください（P.7）。

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。

⚠ 注意

ファンタム電源の取り扱いについて

ファンタム電源供給の必要なコンデンサー・マイクを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。
(本機のファンタム電源：DC 48V、10mA Max)

使用上のご注意

設置について

- ・設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。

修理について

- ・修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- ・当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- ・記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- ・失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。

- ・エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：Roland EV-5、FV-500H/L）をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
- ・抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

知的財産権について

- ・第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- ・第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイルデータ、伴奏パターン、フレーズデータ、オーディオループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をするに関しては、当社の許諾を必要としません。
- ・製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューターネットワークを通じて公開したりすることはできません。

- ・MMP (Moore Microprocessor Portfolio) はマイクロプロセッサのアーキテクチャーに関する TPL (Technology Properties Limited) 社の特許ポートフォリオです。当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。
- ・SD ロゴ () および SDHC ロゴ () は SD-3C、LLC の商標です。
- ・ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- ・本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- ・Roland、BOSS、LOOP STATION は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

ボス株式会社

〒431-2103 静岡県浜松市北区新都田 1-5-3